

## 1. 概要

キルチネル大統領は、カトリック教会との関係改善に向けた姿勢を見せた。また、マルビーナス（フォークランド）紛争開始24周年行事が開催され、キルチネル大統領は、英国に対して、マルビーナス諸島領有権の誠実な交渉を再開するよう呼びかけた他、同紛争の元傭兵士に対して、軍政期の政権の対応を謝罪する一方、同紛争を導いた元傭軍高官を非難した。ウルグアイにおける製紙工場建設問題は、解決の糸口が見えない状態が続いている。また、同問題を巡り、フィンランド国際通商相の訪傭が中止された他、同問題は、傭と伯及びベネズエラとの首脳会談でも取り上げられた。その他、露首相の訪傭、アゼルバイジャン外相の訪傭等が行われた。

## 2. 内政

### (1) マルビーナス紛争開始24周年行事

(イ) マルビーナス（フォークランド）紛争開始から24年目にあたる2日、キルチネル大統領は、昨年同様、エル・パロマール空軍基地において同関連行事に出席した（クリスティーナ大統領夫人（上院議員）、シオリ副大統領、ガレ国防相、パンプーロ上院議員（前国防相）等同席）。

(ロ) キルチネル大統領は、同行事における演説の中で、英国に対して、マルビーナス諸島領有権の誠実な交渉を再開するよう呼びかけた。

また、キルチネル大統領は、ガルティエリ政権（1981－1982年）が、マルビーナス紛争元傭兵士の本土帰国を秘密裡に行ったことに関して、本来、国の英雄として迎えるべきであり、このような措置は、本当に恥ずべきことであるとし、元兵士に謝罪すると共に、祖国のために戦ったとして同元兵士に感謝する一方、元傭軍高官は、傭軍及び傭国民を不名誉にした卑怯者である等と述べて、同紛争を指揮した元傭軍高官を批判した。

### (2) 政府と教会の関係

(イ) 11日、軍政期（1976－1983年）に殺害された宗教関係者の冥福を祈る司教会議主催の年次行事が、ブエノスアイレス市において開催され、キルチネル大統領が出席した（アルベルト・フェルナンデス首相、アニバル・フェルナンデス内相、パリーリ大統領府長官、オリベリ外務副大臣（宗務担当）等同席）。

(ロ) キルチネル大統領は、同行事終了後、会場を後にする際、ベルゴグリオ枢機卿（司教会議議長）と握手を交わし、教会との関係改善に向けた姿勢を見せた。

(ハ) 革命記念日である5月25日は、歴代大統領が、ブエノスアイレス市の大聖堂で行

われるミサ（テデウム）に出席してきたが、昨年、キルチネル大統領はテデウムには出席しなかった。しかし、本年5月25日は、キルチネル大統領がテデウムに出席すると見られている。なお、同日は、キルチネル大統領の就任3年目にもあたる。

### （3）労組の動向

（イ）5日、キルチネル大統領は、大統領府において、亜最大の労組連合である労働総同盟（CGT）のモジャノ代表（トラック労組書記長）と会談し、同会談後、経営側とトラック労組側の間で、トラック運転手に対して約19%の賃上げが合意された。

（ロ）同合意により、トラック労組以外の労組も、10%台後半の賃上げの合意に至ると見られている。

## 3. 外交

### （1）ウルグアイ

（イ）4日、ゴンサロ・フェルナンデス・ウルグアイ大統領府長官は、「残念ながら、（ウルグアイにおける製紙工場建設を担当する企業の一つである）Botnia社は、10日間のみ（8-18日）の建設中断を行うと発表した。この期間は、実質的には、ウルグアイの祝日を含んでおり、また、同建設が環境に与える影響を調査するための時間として十分ではないため、亜側を満足させるものではない」と述べた。

（ロ）5日、同工場建設地からウルグアイ川を挟み対岸に位置するエントレリオス州グアレグアイチュ市の市民団体は、同建設の環境に与える影響を危惧し、同建設反対を訴えるため、再びウルグアイとの国境の橋梁を封鎖する措置をとった。

（ハ）10日、アルベルト・フェルナンデス首相及びタイアナ外相は、エントレリオス州の市民団体代表と会談した。政府側は、市民団体に対して、橋梁封鎖を解除するよう求め、他方、市民団体側は、亜政府に対して、製紙工場建設問題を早急にハーグの国際司法裁判所（ICJ）に提訴するよう求めた。

（ニ）5月5日、キルチネル大統領は、同建設が環境に与える影響を調査すること等をウルグアイに求めるため、グアレグアイチュ市において開催される大規模な集会に参加する予定であり、全国の州知事、市長等に参加を呼びかけている。なお、同日前後、亜は、同問題をICJに提訴すると見られている。

### （2）フィンランド

（イ）19日、キルチネル大統領は、Botnia社（フィンランド資本）及びENCE社（西資本）に対して、ウルグアイにおける製紙工場建設が環境に与える影響を調査するために90日間の建設中断を改めて要請すると共に、フィンランドに対して、同問題解決のための協力を求めた。

（ロ）25日、Paula Lehtomaki フィンランド国際通商相は、亜を訪問する予定であったが、

20日、同相は、亜訪問を取り止めた。フィンランド政府は、同訪問中止につき、訪問客が歓迎されない状況となったと説明すると共に、フィンランドは、(亜ウルグアイ間の問題の)当事者ではないとの立場を示した。

### (3) ブラジル

(イ) 当地マスコミで、ルーラ伯大統領が、ハロネン・フィンランド大統領に対し、ウルグアイにおける製紙工場建設問題につき、秘密裡に仲介を働きかけていた旨報じられたのに対して、20日、亜伯両外務省は、右事実を否定した。

また、同日、タイアナ外相は、製紙工場建設を巡る亜ウルグアイ間の問題につき、亜は伯に対して仲介を要請したことはなく、同問題は、亜ウルグアイの二国間の問題であるとの立場を明確にした。

(ロ) 25日、キルチネル大統領は、サンパウロにおいて、ルーラ大統領と約2時間に亘り会談した。両大統領は、亜伯関係が大変良好であることをアピールすると共に、製紙工場建設問題を巡る亜ウルグアイ間の対立、メルコスールの現状、ベネズエラとのエネルギー計画、ベネズエラのCANからの脱退の可能性とその影響等について協議した。

(ハ) 26日、キルチネル大統領は、ルーラ伯大統領及びチャベス・ベネズエラ大統領と三者会談を行なった(下記(4)ベネズエラ参照)。

### (4) ベネズエラ

#### (イ) 次期駐ベネズエラ大使

17日、キルチネル大統領は、チャベス・ベネズエラ大統領と親交のあるアリシア・カストロ前下院議員に対して、駐ベネズエラ大使のポストを打診し、同女史は、その場で同オファーを受け入れる旨表明した。同ポストは、昨年12月にガレ前大使が国防相に就任したことに伴ない空席となっていた経緯がある。

#### (ロ) 三首脳会談

(i) 26日、キルチネル大統領は、サンパウロにおいて、ルーラ伯大統領及びチャベス・ベネズエラ大統領と約3時間に亘って三者会談を行ない、南米地域の現状、南米ガス・パイプライン計画等について協議した。

(ii) キルチネル大統領及びルーラ大統領は、19日のパラグアイでの南米4ヶ国(ウルグアイ、ボリビア、パラグアイ及びベネズエラ)首脳会合でのチャベス大統領の対応(亜・伯抜きで南米ガス・パイプライン建設計画への参加を呼びかけたことや「より良い地域統合ができるのであれば、メルコスールが消滅したとしても自分は心配はしない」等と発言したこと)等に関し、チャベス大統領に懸念を伝えたのに対して、チャベス大統領は、単に(ウルグアイ、パラグアイ、ボリビアを)助けたかっただけであると説明した。

(iii) 会談後、アモリン伯外相は、会談での協議につき、亜・伯・ベネズエラの3ヶ国は、南米ガス・パイプライン建設計画は実現可能であるとの考えで一致し、9月に全ての南米

首脳を招集し、同計画への参加を呼びかける旨発表した。

(iv) キルチネル大統領は、亜は、ウルグアイに対して、Botnia 社が工場建設を中断した場合、中断期間中、工場建設に携わる同社職員に対し給料を支払うと共に、環境調査に関わる費用を負担する用意があることを提案した旨述べた。

チャベス大統領は、同建設問題は、亜・ウルグアイの二国間問題であるとの立場を明確にした。

#### (5) ロシア

(イ) 6-7日、フラトコフ露首相が亜を訪問した。

(ロ) 7日、フラトコフ首相は、キルチネル大統領と会談し、露訪問招待を改めて伝えた。なお、昨年9月、国連総会出席の機会を利用してキルチネル大統領とプーチン大統領が会談した際、プーチン大統領はキルチネル大統領の露訪問を招待していた経緯がある。

また、会談後、フラトコフ首相は、大変良い会談であり、両国は、二国間関係を強化するとの点で一致していると述べた。

(ハ) 同日、フラトコフ首相は、タイアナ外相と会談した。同会談において、フラトコフ首相とタイアナ外相は、ロシアのWTO加盟への亜の支持に関する合意文書、及び過去に亜と旧ソ連の間で署名された11の協定の効力を再確認する合意文書に署名した。

(ニ) その他、同日、フラトコフ首相は、亜議会を訪問し、シオリ上院議長（副大統領）及びバレストリーニ下院議長等と会談した。

#### (6) イタリア

(イ) 11日、キルチネル大統領は、イタリア総選挙で勝利したプロディ「連合」代表に対して祝辞を送った。

(ロ) 今般、キルチネル大統領がプロディ代表へ早々に祝辞を送ったのは、亜政府が次期伊政権との関係改善を期待しているためと見られている。

#### (7) アゼルバイジャン

(イ) 3日、タイアナ外相は、南米外遊の一環として亜を訪問したメメディアヤロフ・エルマル・アゼルバイジャン外相と会談した。

(ロ) 同会談において、メメディアヤロフ・エルマル外相は、タイアナ外相に対して、亜においてアゼルバイジャン大使館を開設する予定である旨伝えた。なお、同大使館が開設されると、ラミで初のアゼルバイジャン大使館となる。

(ハ) 両外相は、アゼルバイジャンが、亜産農業製品の輸出にとって魅力ある市場であることで意見が一致した。

#### (8) 要人往来

(イ) 来訪

- 4月3日 メメディヤロフ・エルマル・アゼルバイジャン外相（タイアナ外相との会談）
- 4月6－7日 フラトコフ露首相（キルチネル大統領、シオリ副大統領、タイアナ外相等との会談）
- 4月17日 ベナイッサ・モロッコ外相（タイアナ外相との会談等）
- 4月18－19日 サバリン・ドミニカ国外相（タイアナ外相との会談等）
- 4月30日－5月2日 ダライラマ氏（チベット指導者）

(ロ) 往訪

- 4月2－4日 ミセリ経済相の伯訪問（IDB年次会合出席）
- 4月5日 ガレ国防相のチリ訪問（ブランロット国防相との会談）
- 4月18－21日 デビード公共事業相のボリビア訪問（モラレス大統領等との会談等）
- 4月20－24日 ミセリ経済相の訪米（スノー財務長官等との会談）
- 4月25日 デビード公共事業相のベネズエラ訪問（チャベス大統領等との会談）
- 4月25－26日 キルチネル大統領の伯訪問（ルーラ伯大統領及びチャベス・ベネズエラ大統領との会談）